

令和2年度 事業報告書

1. 記念事業の推進

- ・青少年国際交流の一環としてAFS国際交流プログラムの活動支援
日中友好・留学生支援、奨学金支給及び体験活動の情宣。
→ 日中友好にも努めた片山哲の意志を継いで、財団としてAFS日本協会
の中国への年間派遣の留学生に対する支援継続について議論した、結果、
コロナ禍の今年も、AFSボランティア奨学金基金としての支給を見送る事に
した。

2. 茶道「都千家如水会」への支援実施

- ・如水会のHPの維持管理並びに柳橋の事務所のお稽古場としての利用を継続。
- ・コロナ禍の今年も、緊急事態宣言発令を受け、令和2年3月より9月迄お稽古場を閉鎖し、
10月11月再開するも、再度の緊急事態宣言を受け、12月より3月までお稽古を中止した。
これにより、如水会からのお稽古場使用料収入が、例年の3分の1に減少した為、やむなく
国の持続化給付金を申請し、10月に給付された。

3. 財団の専用HPの作成検討。

- ・以前から財団のHPを共同サイトに載せ毎年更新しているが、内容が限定されるので、
折を見て専用サイトの作成を検討中。

4. 片山哲遺品の保管・管理の為、歴史的に価値がある書画、古文書、掛け軸等の保守 修理を昨年に引き続き、実施した。

- ・片山哲の息子で継承者であった片山民雄(次男・2014年没)から譲り受けた哲の遺品
の内、歴史的に価値があると思われる書画、古文書、掛け軸等を長年放置していた
ため、傷みも目立つので、財団事業としてその保全を数年かけて行うこととした。
今年も、片山哲の父省三の居宅として利用していた片瀬の離れ(茅葺屋根の別室)
の引き戸絵(平安時代の貴族の様子が描かれてあるもので江戸時代かそれ以前の
もの)の修復を行った。

5. 令和2年6月に役員交代が行われた。

令和2年6月19日の定時評議員会で評議員・理事・監事の交代があった。
新評議員に木ノ内一雄、小林悦子、竹岸玲奈、大野篤志の各氏が、
新理事に青池栄、榎本泰、澤邊紀生、丸山輝雄、山本寛の各氏が、
新監事に佐藤良平、三好貴志男の各氏が夫々就任された。
続いて開かれた臨時理事会で、長年勤めた代表理事米窪健氏に代わり、新しく
青池栄氏が代表理事に就任された。